

古文書を読む会学習記録

作成日 平成31年4月29日

開催日	平成31年4月25日	時 間	10:00～12:00
場 所	区民活動センターAB会議室	出席人数	14名
講 師	真田 雅行氏	作成者	兒玉 仙三
テーマ	第二学習 艱難実録(函館戦争)(下)⑳		
概 要	<p>〔前承〕(側用人・辻七郎左衛門の五月廿九の自訴、嘆願書の差出を承けて)</p> <p>* この嘆願書は中島他重役衆中へ廿七日に差出候得ども、君公御自訴書面等の儀に付、不都合有之、廿九日に引直して貰い候。</p> <p>一、六月朔日、この自訴状に御添書を加え、重原公用人・小林六三郎を以て天朝へ差出され候。</p> <p>一、二日、君公御同姓安中邸板倉主計頭様へお預仰蒙られ、御引移り相成り候。</p> <p>一、大石隼雄も備前邸へ自訴嘆願致し候由。備前邸に謹慎。</p> <p>一、西郷・平野両人は宇津宮へお預け相成り候哉の由。</p> <p>一、七日御一類連名で、君公の御為、次の御嘆願書御差出され候由。〔その要約〕今般主計頭へお預け仰せ付けられ候同姓伊賀儀、昨夏、降伏謝罪恭順謹慎罷り在り候処、宇都宮、兵災混乱の砌、進退を失う度、遂に今日の姿に立至り候条、私共に於も恐惶戦栗の至、何と申上ぐ可様も御座無く候。尤も同人は脱帰の機会に後れ、嫌疑の地に日送り候事深く恐れ入り、一同心配していたが、去る四月賊地脱出。 朝廷に帰命仕り候上は、何卒出格寛大なる御沙汰を下され度、嘆願奉り候。猶又、重々恐入候得ども、先祖伊賀守・周防守二代に亘って天子に奉職して来ました。格別の天寵を蒙り、家名を立られるべく、何卒皇愍を垂れられ御仁慈の御沙汰を下さる様、一同号哭哀願奉り候。</p> <p>一、六月七日 行政官よりお達し「板倉伊賀家来 辻七郎左衛門儀、當分其の藩へお預け仰付けられ候。」</p> <p>一、後は、天裁を待つのみ。これより後の事は皆知れる。よって、是で止筆す。</p> <p>追記：預けられ中の杉原邸の人々、仲間達、函館に在った時の人々へ感謝の詞。</p> <p>艱難実録付録</p> <p>これは、この記録「艱難実録」の著者：「板倉伊賀家来 辻七郎左衛門忠貞」及びその一類の出自や履歴等を纏めたもの。その片鱗のみ記し省略。</p> <p>* 予は元桑名藩・神山武左衛門 高意の次男なり。母は同藩・柴田十右衛門の姉なり。文政十亥年十二月六日江戸八丁堀桑邸に生る。……。十九才の折、当辻家へ婿養子となり、桑名を出て江戸へ来たれり。(以下省略)</p> <p>以上で長編「艱難実録」完了。明治二年巳六月廿六日 辻七郎左衛門忠貞</p>		
次回予定	令和1年5月9日 10:00～12:00 於：区民活動センターAB会議室 第一学習 野島浦 鈴木家文書⑰		